仲 間 と 共 に

令和3年度　＜三輪南小　学校だより＞　令和4年2月25日

コロナ禍に「学校の価値」を考える

校長　小野木義浩

今年度も、やはり「新型コロナウイルス感染症」の影響が大きかった一年でした。

学校では、これまで当たり前に行ってきた行事や教育活動が中止・規模の縮小をしました。授業方法なども変化させました。やり方やネット環境の改善など、さらに工夫は必要ですが、「リモート学習」は、どの学級でも行うようになりました。今後、学びのオンライン化・デジタル化はさらに飛躍的に進むでしょう。オンラインやデジタルツールの活用は、学校にとって大きなチャンスにもなるととらえています。うまくオンラインやデジタル技術を活用できれば、子供一人一人に応じて個別最適化された質の高い学びを提供できるようになります。

さて、コロナ禍が継続する中で、「学校の価値」が問われるようになりました。世間には、学校に行かなくてもリモート学習で事足りるのではないかという一部の考えもあったようですが･･･。

「コロナ禍のリモート学習には感謝。でも、子供の集中力ではリモート５時間はつらい。」「画面上で先生が語り掛けてくれたり、質問に答えてくれたりするとがんばれるみたい。」などという保護者の方の声も耳にしました。しかし、学校にはリモート学習だけで補えない価値があります。

例えば・・・＜仲間との関わりを通して広く・深く学ぶ＞

現在のコロナ禍がそうであるように、これからの社会は予測困難で答えのない問題に対応することが求められると言われています。学校には多様な仲間がいます。子供たちは、仲間と協働して考え、問題を解決することで、自分一人の考えを超えた多様で深い考えを見つけ出すという機会が学校にはあります。これは、学習・生活・仲間づくりなどにおいても言えます。

＜人とのかかわり方やよりよく生きることを学ぶ＞

子供たちには、将来自立して、社会の中でよりよく・しあわせに生きていってほしいです。子供たちは、そのための考え方や手立てなどを学校という社会の中で、失敗を重ねながら少しずつ学んでいるのです。例えば、自分の意見を仲間に伝えるにはどうしたらよいのか・仲間となかよくするにはどんなことに気を付けたらよいのかなど、日々、実体験として学び、成長しています。

＜リアルの価値を学ぶ＞

デジタル化やオンライン化が進むほどリアルの価値が高まります。情報の共有やコミュニケーションはオンラインでも可能ですが、五感で感じられることや実体験はオンラインでは得られません。学校では、こうした人や自然、文化といったリアルな魅力がある地域社会を教材にして取り入れながら「リアルの価値」を学びます。教育資源にあふれる地域社会に教育を積極的に開くことで、子供たちにＡＩ時代を生き抜く、豊かな感性や 創造性、人間性が育まれます。

また、コロナ禍で、学校には「教育」という側面以外に「福祉」的な側面（例えば健康的な生活リズムづくり、子供の安全な居場所等）も担っていることが浮き彫りになりました。休校や学級閉鎖の継続から、学校や保育所、幼稚園などがないと社会が機能しないという部分も感じています。

これまでのコロナ禍で体験した変化をプラスにもとらえて、大切にすべきこと・思い切ってやらないことなどを明確にして「アフターコロナにおける学校の教育のあり方」を考えていきます。